



伐採後の斜面に顔をだした石垣の可能性のある石

## 信長の石垣 出た？出ない？

主郭（本丸）地区の発掘調査では表土を取り除く作業が連日進んでいます。表土は雨などで流れてきた山頂の土砂や落葉など植物でできた腐葉土による堆積で、それらを取り除くと大量の石（拳～人頭大）が現れます。これらは、この斜面が石垣で覆われていた当時、石垣の背後に詰められた「裏込石（うらごめいし）」といわれる石が、崩れて転落したものと考えられます。このような石の存在からも、小牧山城が土の城ではなく、「石の城」であったことが推定できます。

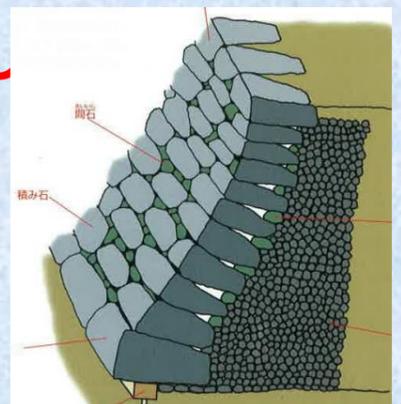
これらの転落した石の奥に目指す石垣が眠っている…はずです。次々に掘り出される大量の石の一つ一つについて、転落したものか、はたまた元の位置を保っているものか、慎重に観察して判断してから取り外さなくてはなりません。貴重な石垣を守るため、緊張感に包まれる調査担当者泣かせの作業はこれからまだまだ続きます。



### 発掘ひとくちメモ

#### ～「裏込石とは？」～

本文中に登場した裏込石とは、右図のように石垣の背後に詰められた石（栗石、ぐり石とも）のことです。裏込石には石垣にかかる荷重を分散し、雨水による石垣の崩壊を防ぐという重要な役割があります。



『城のつくり方事典三浦正幸著(小学館)より』

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会